

報告タイトル

ベトナムにおけるインフォーマル就労者の実態分析

—社会保障制度への包摂という観点から—

Analysis of Informal Workers in Vietnam:

A Perspective on Inclusion into Social Security Systems

氏名(所属)

Nguyen Viet Tiep(東京大学院)

NGUYEN Viet Tiep (University of Tokyo)

要旨(800字程度)

本稿では、筆者が実施した質的調査に基づき、マクロデータだけでは把握しきれないインフォーマル就労者の実態を明らかにする。

近年、急速に行われている近代的な産業構造の転換により、インフォーマル就労者の割合は少しずつ減少しているとはいえ、2021年の時点で労働力人口の約70%を占めている。これには二次産業における労働者吸収能力の不足や、労働者吸収のための条件不備が影響しており、教育や職業訓練の充実、個人事業の法人化による雇用契約の推奨が対策として進められている。また、インフォーマル就労者も制度内に包摂するため、社会保険をより包括的な制度への改革も行われている。これらの取り組みは「インフォーマル就労者のフォーマル化」戦略および「社会保険の適用拡大」戦略として位置づけられ、労働市場のフォーマル化と社会保険の普及を促進し、持続可能な社会の実現に貢献することが期待されている。

「インフォーマル就労者のフォーマル化」戦略および「社会保険の適用拡大」戦略は、確かに重要な課題である。しかしながら、筆者が実施したベトナムの3大都市におけるインフォーマル就労者に対する質的調査では、先行研究で指摘されたこれらの戦略を困難にするような実態が見られたのが注目に値する。すなわち、収入や労働条件が比較的有利であることから、元々公務員や正社員として勤務していた者が退職後にインフォーマルな労働市場に参入するケースが少なくないこと、また、頻繁な労働移動を行いながらも今後もフォーマルな就労者の身分を維持し続けたいと望む者が多数派であることが確認された。

この実態を真剣に受け止めるのであれば、社会保険を中心とした全国民を対象とする社会保障制度の構築という考え方に対しては、根本的な見直しが求められることが結論として導き出した。